

ぎのわん地域づくり塾 ニュースレター

Vol. 5

主催：宜野湾市 / 宜野湾市社会福祉協議会 運営：まちなか研究所わくわく
共催：沖縄国際大学 後援：沖縄県地域振興協会

H29. 8. 31 ~ぎのわん地域づくり塾の様子をお伝えします~ 発行：宜野湾市市民協働推進課

コーディネーターの役割を再認識した

第4回 <8月31日(木)19:00-21:30> 22名参加
地域課題を調べる

～フィールドワークの作戦会議～

高崎経済大学 櫻井 常矢氏



第4回講座は、フィールドワークに向けてどのような情報を得たいのかを話し合いました。そして地域づくり塾アドバイザーの高崎経済大学の櫻井教授よりコメントと、コーディネーターとしての役割について講話をして頂きました。

まず最初に、各グループで前回の講座で書きだした、何とかしたい「現象」と「原因」から取り組む地域課題を絞り込み、発表しました。

(櫻井先生よりコメント)

- 課題設定とは、塾生にとって何のために頑張るかという道しるべになるもの。多様な意見があるようだがグループで焦点を絞ることが必要。
- 課題を何に設定するかで調べることも変わってくる(相談できる場がないのか or 知らないのか)

塾生の声 ~レポートより~

～気づき・学び～

- 話し合っている間に当事者になってしまって、櫻井先生の話で我に返ることができた。
- 私達の役割はコーディネーターだと認識することが大事だと感じた。
- 皆が”当事者”だとすまじいかな。
- プロセスが大事。いつのまにか成果や結果を求めていることに気付いた。
- 承認されると、やっていることが楽しくなる。
- 地域活動でも相手を認めることが大切であると知った。

続いて次回のインタビューで聞きたいこと、まち歩きで調べたいことを付箋紙に書きだし、質問リストの作成と、まち歩きのルート設定を行いました。

最後に、櫻井先生よりコーディネーターの役割について講話をして頂きました。(以下講話より)

- (ヒアリングの際のアドバイスとして) 事実を聞くことと想い(動機)を聞くことを分ける。いま既にある地域の努力を見出し認めることが大事。
- 私たちは地域づくりの主体ではない。地域を俯瞰して見ているコーディネーターがいるところは、地域づくりが上手くいっている。
- 大切なことは、成果や結果ではなくプロセス。プロセス自体が成果となり地域にとって役に立つ。
- コーディネーターはつなぎ役。今ある努力をつないでいく。まずは地域の人達の力で組み立てられるようにしていくことが大事。
- 接点(人が集う場)をつくることで、互いに承認され(褒められ)地域や人は育まれていく。



～自分に生かしたいこと～

- 自分が主体ではなく、つなぎ役になること。
- 質問は「ポジティブ」な事。
- 人が取り組んできたことを認める、ほめる。
- 想いを引き出すトークをできるように。
- 思い込みを捨てる。
- 結果を出そうと焦らない。
- 地域の方の努力をたくさん発見したい。

今回の講座は…フィールドワーク

～まちあるき・地域インタビュー実践～

まちなか研究所わくわく 宮道 喜一氏

9月9日(土)9:00～ @宇地泊区公民館